

2020年11月 キューバ情勢

【概況】

1 内政

- (1) 共産党政治局会合の開催
- (2) ハバナ国際空港再開
- (3) 熱帯暴風雨「Eta」の被害状況視察
- (4) ハバナ市創設501周年
- (5) 国外に滞在するキューバ人に対する措置
- (6) 「サン・イシドロ運動」

2 外交

- (1) ザリーフ・イラン外務大臣の訪問
- (2) ロシアによる支援
- (3) 米大統領選結果に対するキューバの反応
- (4) 東南アジアにおける友好協力条約の署名
- (5) エラカート・パレスチナPLO執行委員会事務局長逝去に対する弔意メッセージ発信
- (6) 新型コロナウイルス対策に係るインドによる支援
- (7) 新型コロナウイルス対策に係るトルコによる支援
- (8) アンドラ外務大臣とのビデオ会談
- (9) 藤村大使による在外公館長表彰
- (10) G77プラス中国の開催
- (11) キューバ・ドイツ間の再生可能エネルギー分野での協力
- (12) キューバ・アンゴラ外交関係樹立45周年
- (13) キューバ・インド外交関係樹立60周年
- (14) マチャド・ベントウーラ共産党第二書記と中国共産党との会談
- (15) シリア副首相兼外務大臣逝去に対する弔辞
- (16) キューバ・ブルガリア外交関係樹立60周年
- (17) アコスタ人民権力全国議会書記と駐キューバ・フランス大使との会談
- (18) 草の根・人間の安全保障資金協力案件引き渡し式
- (19) キューバ・ベトナム外交関係樹立60周年記念
- (20) 第2回キューバ・EU間の政策会議
- (21) 西サハラ地域に関するキューバ外務省声明
- (22) Faisai Mekdad シリア新外務大臣就任への祝辞
- (23) ロドリゲス外務大臣とゴンサレス・スペイン外務大臣の電話会談

(24) 日本・キューバ間の協力覚書署名

(25) 新型コロナウイルス感染症対策のための諸外国へのキューバ人医療団の派遣

3 新型コロナウイルス

(1) 新型コロナウイルス感染状況等(※11月30日23:59時点、保健省発表)

(2) ハバナ国際空港再開に伴う措置

【本文】

1 内政

(1) 共産党政治局会合の開催

10日、17日及び24日、ラウル・カストロ共産党第一書記の主宰により、共産党政治局会合が開催された。各会合では、来年4月に開催予定である第8回共産党大会で議題となる諸事項につき、協議が行われた他、2016～2020年の経済状況の概略や、経済社会政策方針の実施状況についても議論された。

(2) ハバナ国際空港再開

11月15日0時よりホセ・マルティ・ハバナ国際空港が再開した。再開に伴い、15日にはマイアミ(Swift 航空)、マドリード(イベリア航空、ブリティッシュ航空)、サントドミンゴ、パナマシティ等から便が到着した。

(3) 熱帯暴風雨「Eta」の被害状況視察

12日から、ディアスカネル大統領、バルデス・メサ副大統領及びマレーロ首相は、熱帯暴風雨「Eta」の被害状況を確認し、復興措置を講ずるため、それぞれ、ビジャ・クララ県、サンティアゴ・デ・クーバ県、シエゴ・デ・アビラ県を視察した。

(4) ハバナ市創設501周年

16日、ハバナ市創設501周年記念行事がホセ・マルティ劇場で開催され、ディアスカネル大統領が出席した。同行事は、故エウセビオ・リアル氏のドキュメンタリーで幕を閉じた。

(5) 国外に滞在するキューバ人に対する措置

17日、キューバ政府は、国外に滞在するキューバ人に対し、例外措置として有効期限が切れた旅券でもキューバに帰国できる旨発表した。

(6)「サン・イシドロ運動」

ア 24日、Cubadebate 紙は「サン・イシドロの真実」と題する概要以下の記事及び動画を掲載。

記事掲載時点でハバナ旧市街にて13人がハンガーストライキに参加し、その多くが社会経済的に不利な状況にあり、職に就かず、前科がある。これら13名はデニス・ソリス氏の解放を求めている。13名は米国のテログループと関連があり、最近キューバ警察と衝突したことにより、侮辱罪に問われている。米国のテロリストは、サン・イシドロ運動を米国から指揮している。

イ 24日付グランマ紙は、「サン・イシドロでの反キューバ・ショーの背後にいるのは誰か」と題する概要以下の記事を掲載。

ハバナ旧市街のサン・イシドロ地区は14人からなる集団により不安にさらされている。うち4名は、米国政府により支援を受けた反革命主義の“新たなショー”である所謂「サン・イシドロ運動」のメンバー。この“ショー”は、金銭目的で米国政府に雇われた者が行ってきたこれまでの取組に類似している。知名度を上げるために、彼らは外貨ショップの廃止を主張。他方、彼らがハンガーストライキを行いながらも、オンラインで外国から食料を購入していることは注目に値する。

ウ 28日、カルロス・フェルナンデス・デ・コシーオ米国総局長は、Timothy Zuniga-Brown 駐キューバ米国臨時代理大使に対し、キューバは米国及びいかなる国の内政干渉も許容しない旨伝達するとともに、政治的・社会的な運動が形成されつつあると知りながら同臨時代理大使がサン・イシドロを何度も訪問したこと、新型コロナウイルス感染症の防疫措置・規則に違反している者を支持したこと等により、外交官及び館長（代理）として深刻な違反を行い、キューバの内政への干渉を行い、ジュネーブ条約上の規定に違反している旨強調した。

エ 28日、ディアスカネル大統領は、自身のツイッターにて、キューバは主権国家であり、いかなる内政干渉も許容しない旨発信し、29日、サン・イシドロ運動は、我々のアイデンティティを崩壊させ、支配するための帝国主義者のショーであり、これらの計画は打倒されるべきである旨発信した。

オ 29日、サン・イシドロ運動に対抗する形でハバナのトリージョ公園にて集会が行われ、ディアスカネル大統領も参加し、その様子を文化省がfacebook 上で配信した

カ 30日、ロドリゲス外務大臣は、自身のツイッターにて、トランプ政権によるキューバ内政干渉は許容できない、駐キューバ・米国臨時代理大使による、公共の秩序及び新型コロナウイルス防疫措置に違反する行為への参加及び扇動に対する直接的な関わりを非難する旨発信した。

2 外交

(1) ザリーフ・イラン外務大臣の訪問

5日から、ムハンマド・ジャヴァード・ザリーフ・イラン外務大臣がキューバを訪問した。

ア 6日、ザリーフ外務大臣は、ディアスカネル大統領と会談した。会談では、二国間関係及び引き続き経済・貿易・協力関係を促進していくための方法について議論した。双方は、科学技術及び保健分野における交流や、新型コロナウイルス対策についても議論した。

イ 6日、ザリーフ外務大臣は、ロドリゲス外務大臣と会談した。双方は、二国間関係が良好であることについて再確認するとともに、経済・貿易・協力関係を促進していくことで一致した。また、国際場裏における共通の関心事項についても議論した。

ウ ザリーフ外務大臣は、カブリサス副首相とも会談した。

(2) ロシアによる支援

5日、ロシアによるキューバに対する500万ドル相当の学校給食に対する支援（世界食糧計画を通じて実施）につき、正式な引き渡し式が開催された。同支援により、キューバ東部の10の市町村で約16200人が裨益する。

(3) 米大統領選結果に対するキューバの反応

8日、ディアスカネル大統領は、米大統領選の結果に関し、自身のツイッターにて「米大統領選において、米国国民は、新たな路線を選択したと認識している。我々は、互いの違いを尊重した建設的な二国間関係の可能性を信じている」旨発信した。ロドリゲス外務大臣はディアスカネル大統領の発信をリツイートした。

(4) 東南アジアにおける友好協力条約の署名

10日、ブルーノ・ロドリゲス外務大臣は、東南アジアにおける友好協力条約（TAC）に署名した。署名式はオンライン方式で行われ、ASEAN10か国の外相が出席した。

ロドリゲス外務大臣は、ASEANとの関係を拡大していく意志を強調し、ASEANによる支援及び「米国の対キューバ経済制裁終了の必要性に関する決議」に対するASEAN諸国の支持に対し、謝意を述べた。また、ロドリゲス外務大臣は、ASEANの国際的な役割の重要性、及び議長国であるベトナムの役割を歓迎した。キューバは、カリブ地域初、かつラテンアメリカ地域で5番目の加盟国となった。

(５) エラカート・パレスチナＰＬＯ執行委員会事務局長逝去に対する弔意メッセージ発信

１０日、ロドリゲス外務大臣は、自身のツイッターにて、サーエブ・エラカートＰＬＯ執行委員会事務局長の逝去に際し、弔意メッセージを発信した。

(６) 新型コロナウイルス対策に係るインドによる支援

１１日、Madhu Sethi 駐キューバ・インド大使は、１７種類の医薬品と感染症対策用防護用品をキューバ政府に引き渡した。

(７) 新型コロナウイルス対策に係るトルコによる支援

１１日、トルコの企業 Karadeniz 社からサージカルマスク５０００枚、簡易ＰＣＲ検査キット１０００セット、持ち運びできる人工呼吸器３台などが寄付され、Berris Ekinci 駐キューバ・トルコ大使よりキューバ政府に引き渡しが行なわれた。Berris Ekinci 大使は挨拶の中で、最近両国間で署名された海洋に関する協定の重要性を強調した。

(８) アンドラ外務大臣とのビデオ会談

１１日、ロドリゲス外務大臣は、マリア・ウバック・フォン・アンドラ外務大臣とビデオ会談を行い、二国間の協力関係を今後も強化していくことで一致した旨、自身のツイッターで発信した。

(９) 藤村大使による在外公館長表彰

１２日、キューバ在住の日本人音楽家河野治彦氏に対して、長年の音楽を通じて二国間友好・交流への貢献に敬意を表し、藤村大使から在外公館長表彰を授与した。１０月３０日に行われた高名なジャズ・ミュージシャンであるセサル・ロペス氏に対する在外公館長表彰に続くもの。

(１０) Ｇ７７プラス中国の開催

１２日、Ｇ７７プラス中国外相会合がオンライン方式で開催され、ロドリゲス外務大臣が出席し、概要以下の演説を行った。同会合では、外相声明が採択された。同声明の中で、米国によるキューバに対する経済・貿易・金融封鎖を断固として拒否し、同封鎖の即時解除が要請された。

ア 新型コロナウイルスの破壊的な影響により、世界は過去１００年間で最も深刻な危機の一つに直面している。

イ 発展への妨害は、不公平で非民主的な国際経済の産物として永続的に存在している。気候変動及び資本主義の非合理的で持続不可能な生産・消費は、皆の

生存を脅かしている。

ウ 発展途上国の対外債務は深刻化し、返済不可能な状況に陥っている。

エ 多国間主義と国連憲章の原則を弱体化させる試みは常に行われており、国際法に反する違法な紛争、一方的かつ強硬な措置が急増している。

オ 米国による封鎖は、新型コロナウイルス拡大下であっても激化し、キューバの発展を深刻に妨害している。このような状況にあっても、キューバは新型コロナウイルスに対抗する戦略を構築し、39か国に53の医療団を派遣した。

(11) キューバ・ドイツ間の再生可能エネルギー分野での協力

15日、キューバとドイツは、再生可能エネルギー分野の協力拡大について議論するため、オンライン方式の会議を開催した。ドイツ側は駐キューバ・ドイツ大使、キューバ側はオマール・デ・ヘスース・フェルナンデス商工会議所事務局長が出席し、双方の企業が出席した。

(12) キューバ・アンゴラ外交関係樹立45周年

15日、キューバとアンゴラは外交関係樹立45周年を迎えた。これを記念して、テテ・アントニオ・アンゴラ外務大臣はロドリゲス外務大臣宛に書簡を発出し、キューバによる無条件の支援に改めて祝意を表明した。キューバとアンゴラは、アンゴラによる独立宣言の4日後に外交関係を樹立した。

(13) キューバ・インド外交関係樹立60周年

16日、キューバとインドは外交関係樹立60周年を記念し、記念切手発行式典を開催した。式典には、キューバ側はロドリゲス外務大臣、ロドリゲス外務次官他、インド側はMadhu Sethi 駐キューバ・インド大使他が出席した。ロドリゲス外務次官は、両国政府及び国民間の歴史的な友好・連帯関係を強調した。Madhu Sethi 大使は、引き続き関係を強化していく意志を再確認するとともに、特に、再生可能エネルギー及びバイオテクノロジー分野において両国の協力が強化されていることに言及した。

(14) マチャド・ベントウーラ共産党第二書記と中国共産党との会談

16日、ホセ・マチャド・ベントウーラ共産党第二書記は、ソン・タオ習近平国家主席特使（中国共産党中央対外連絡部長）とビデオ会談を行い、10月26日から29日に開催された中国共産党中央委員会第5回全体会議の結果報告を受けた。会談中、マチャド・ベントウーラ第二書記は、結果の共有に謝意を表明し、両党間の友好と信頼関係を再確認するものである旨述べた。キューバ側からは、サルバドール・メサ副大統領（政治局員）他、政治局員が同席した。

(15) シリア副首相兼外務大臣逝去に対する弔辞

16日、ワリード・アル・ムアッリム・シリア副首相兼外務大臣の逝去に関し、ロドリゲス外務大臣は、自身のツイッターにて、シリア国民及び政府に対する弔辞を発信した。19日、カブリサス副首相は、駐キューバ・シリア大使館を訪問し、弔問記帳を行った。

(16) キューバ・ブルガリア外交関係樹立60周年

17日、キューバ・ブルガリア外交関係樹立60周年を記念して、オルギン県にて写真展が開催された。Maria Donska 駐キューバ・ブルガリア大使は、両国民の兄弟関係が写真展の本質的要素である旨強調した。

(17) アコスタ人民権力全国議会書記と駐キューバ・フランス大使との会談

18日、オメロ・アコスタ人民権力全国議会書記は、Patricce Paoli 駐キューバ・フランス大使と会談を行った。会談後、アコスタ書記は、自身のツイッターにて、会談では両政府間の共通事項について分析が行われ、特に両国の法律制定議会について議論が行われた旨発信した。アコスタ書記は、気候変動や保健、農業、バイオテクノロジー、科学調査及び持続可能な開発等のテーマについて交流を行うため、両議会間の関係を強化していく意志を表明した。

(18) 草の根・人間の安全保障資金協力案件引き渡し式

18日、ハバナ旧市街の社会福祉施設にて、日本の草の根・人間安全保障資金協力案件「ハバナ県ハバナ・ビエハ区社会福祉施設機材整備計画」により同施設の運動公園に供与された機材の引き渡し式が行われ、藤村大使が出席した。本プロジェクトを通して、施設を利用する高齢者のケアの向上が期待されている。

(19) キューバ・ベトナム外交関係樹立60周年記念

20日、キューバ・ベトナム外交関係樹立60周年を記念し、エステバン・ラソ人民権力全国議会議長は、Thanh Tung 駐キューバ・ベトナム大使と会談を行った。ラソ議長は、両国の歴史的な兄弟関係について強調し、「ホーチミンの地を愛するようキューバ人に説いたフィデルによるまかれた種である」と表現した。双方は、共通の関心事項について議論し、両国及び両国議会間の協力を引き続き強化していくことで一致した。同日、両国の共産党は、ビデオ会議方式で会談を行った。

(20) 第2回キューバ・EU間の政策会議

20日、キューバとEUの代表は、オンライン方式にて、キューバ・EU間の持続可能な開発に関する第2回政策会議を開催した。キューバ側は、ロドルフォ・レジェス・ロドリゲス多国間問題及び国際法総局長他が出席した。会議では、持続可能な開発に関し、特に双方にとって優先的な課題である地球温暖化や社会に根差した経済への転換の為の戦略、新型コロナウイルスに対抗するためのバイオテクノロジーの発展等について議論を行った。

(21) 西サハラ地域に関するキューバ外務省声明

21日、キューバ外務省は、西サハラ地域に関し、「キューバは、西サハラ地域の最近の情勢について、懸念をもって注視している。キューバは、国連憲章、国際法及び特に国連総会決議第1514号に沿った、西サハラの人々の正当な自決権の行使を保証する西サハラ問題解決に対する支持を再確認する」旨のエミリオ・ロサダ二国間問題総局長声明を発出した。

(22) Faisai Mekdad シリア新外務大臣就任への祝辞

23日、ロドリゲス外務大臣は、Faisai Mekdad シリア新外務大臣就任に際し、自身のツイッターにて祝意を表明し、両国の友好・協力関係を強化していく意志を再確認した。

(23) ロドリゲス外務大臣とゴンサレス・スペイン外務大臣の電話会談

23日、ロドリゲス外務大臣は、アランチャ・ゴンサレス・ラヤ・スペイン外務大臣と電話会談を行った。ロドリゲス外務大臣は、自身のツイッターにて、政治対話をあらゆるレベルに推進し、経済・貿易・金融関係を引き続き強化していくことで一致した旨発信した。

(24) 日本・キューバ間の協力覚書署名

26日、藤村大使は、ホセ・アンヘル・ポルタル・ミランダ・キューバ保健大臣との間で、「日本国厚生労働省とキューバ共和国保健省との間の協力覚書」に署名した。本覚書により、保健・医療制度強化や高齢者ケアなどに関する経験の共有、また保健人材の能力強化などを通じて、厚生労働省とキューバ保健省との間で協力を進めることを確認した。

(25) 新型コロナウイルス感染症対策のための諸外国へのキューバ人医療団の派遣

キューバ政府発表(大統領府、外務省発表及び政府系メディア含む)によると、

1 1 月末時点でのキューバ人医療団の派遣先国は以下のとおり（すでにキューバに帰国している医療団も含む）。

- ・ 英国領アンデラ
- ・ 仏領マルティニーク
- ・ 英国領バージン諸島
- ・ 英国領モンセラット
- ・ アンティグア・バーブーダ
- ・ グレナダ
- ・ セントルシア
- ・ セントクリストファー・ネービス
- ・ セントビンセント及びグレナディーン諸島
- ・ バルバドス
- ・ ドミニカ
- ・ トリニダード・トバゴ
- ・ ハイチ
- ・ 英国領タークス・カイコス諸島
- ・ ジャマイカ
- ・ ベリーズ
- ・ スリナム
- ・ メキシコ
- ・ ホンジュラス
- ・ ニカラグア
- ・ ベネズエラ
- ・ ペルー
- ・ トーゴ
- ・ 赤道ギニア
- ・ エスワティニ王国
- ・ 南アフリカ
- ・ アンゴラ
- ・ サントメ・プリンシペ
- ・ カーボベルデ
- ・ ケニア
- ・ ギニア共和国
- ・ ギニア・ビサウ
- ・ シエラ・レオネ
- ・ アンドラ

- ・イタリア
- ・アゼルバイジャン
- ・カタール
- ・クウェート

3 新型コロナウイルス

(1) 新型コロナウイルス感染状況等(※11月30日23:59時点、保健省発表)

- ア 感染者累計：8381名
- イ 死亡者数：136名
- ウ 退院者数：7658名
- エ 国外搬送者数：2名
- オ 入院中：585名(うち、重篤3名、危篤1名)

(2) ハバナ国際空港再開に伴う措置

ア 出発時を問わずすべての入国者は到着時にPCR検査を受診。同検査結果で陰性が判明するまで外出を控える。

イ ホテルに滞在する場合、ホテルの医療チームがケアを行うが、民泊施設に滞する場合、地域の医師がケアを行う。

ウ 旅行者は、到着時の検査結果が陰性であれば、以降、キューバ当局の定める感染防止措置をとりつつ自由に移動して差し支えない。他方、外国人居住者はキューバ人と同じ扱いで、入国後5日目に2度目のPCR検査を受け、結果が出るまで外出を控える。ただし、キューバ滞在期間が5日に満たない場合は、空港到着時の検査結果が陽性判定でない限り、出国して差し支えない。

エ 陽性が確認された場合、入院、医師の治療、接触者の追跡を含む感染拡大防止措置に服する。

オ 12月1日より、PCR検査を含む衛生措置費用として、30米ドル相当が徴収される。

カ 今般のホセ・マルティ・ハバナ国際空港の再開に伴い、荷物制限(32キロの荷物を2個まで)を解除。

(了)